

女性の人材育成事業「チェリア塾」 【山形県男女共同参画センター】

事業を行った背景

- 山形県は、性別による固定的な役割分担意識が強く残っている。特に、郡部等においてその傾向が強い。
- 地域における意識啓発事業の中核を担うべき市町村の多くは推進体制が不十分なため、事業がなかなか実施できない状況にある。
- チェリアでは、平成16年度より「チェリア塾」を開講しており、その修了生約200名は県内各地域で活躍しているが、修了生同士の繋がりは薄く、チェリア塾で培われた「仲間」「意欲」「スキル」などの貴重な財産が、社会的に活かされていない状況にある。

事業の特徴

- 「市民協働」の実践
地域ごとに形成された「ネットワークグループ」が、チェリアと連携しつつ市町村も巻き込んで、「市民協働」の実践活動を展開する。
- 修了生の生涯を通じた人材育成
体系的な学習講座「チェリア塾」と、それを基にした実践活動を通じ、意欲に応じて一生涯を通じた学習活動の継続が可能となる。

事業の効果

地域にとって

- ・ 多様な普及啓発事業の展開

➡ 地域における身近な男女共同参画の促進

修了生にとって

- ・ ネットワークメンバーとの繋がり
- ・ 多様な能力開発、経験

➡ エンパワーメント

目的・目標

- 目的
地域における身近な男女共同参画を促進するため、チェリア塾修了生のネットワークを県内4地域ごとに形成し、それぞれの地域において行政と連携した市民協働による多様な実践活動を展開する。

工夫点

- チェリア塾を毎年各地域(県内4地域)を巡回して開催
⇒4年ごとに当該地域に修了生が誕生 ⇒既存のネットワークに参入
⇒永続性のあるネットワークの形成が可能
- チェリアの事業を、ネットワークとの協働事業に積極的に転換
- 講師養成に向けた講座の開設【チェリア塾専門コース】
 - ・ 年間10回程度の男女共同参画講座(知識の習得)
 - ・ 男女共同参画を分かりやすく伝えるためのワークショップ講座(技法の習得)

今後の課題

- メンバー間、ネットワーク間の情報共有
ネットワークへの参加者(約100名)間の年齢・情報スキルにばらつきがあり、メンバー間の情報共有、情報発信等のあり方が難しい。
- 「出前講座」の普及拡大
「出前講座」制度がスタートして3年目なので、要請は市町村に限られ件数もまだ少ない。今後、市町村の場の設定がポイントとなる。また、市町村のほか企業や教育機関等にも拡大していく必要がある。

女性の人材育成事業「チェリア塾」 ～地域における身近な男女共同参画促進を目指して！～

- ★ 山形県は「村山地域」「最上地域」「置賜地域」「庄内地域」に分かれており、〇〇には地域名称を入れる。
毎年4地域を回って開催するので、4年ごとに当該地域に修了生が誕生する。

